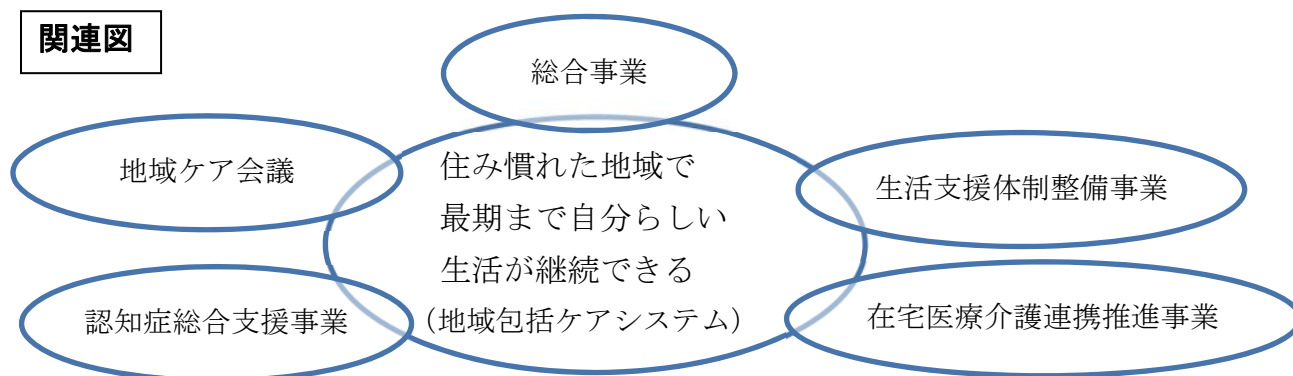


地域包括ケアシステム構築に向けた進捗状況について

1 地域包括ケアシステム構築へ向けた事業概要について

事業名	内容	本町の事業開始時期
介護予防・日常生活支援 総合事業（総合事業）	要支援者へ町独自の多様なサービスを提供、 介護予防の推進、高齢者の社会参加・支え 合い体制づくり等	平成28年4月1日
在宅医療・介護連携推進事業	在宅医療・介護連携の推進	平成28年4月1日
生活支援体制整備事業	生活支援サービスの充実・強化	平成28年4月1日
認知症総合支援事業	認知症施策の推進	平成29年4月1日
地域ケア会議推進事業	地域課題を抽出し地域づくりや施策形成に 反映	平成31年4月1日

関連図



豊山町のビジョン

助け合い 支え合う 健康であたたかなまち
～思いやり 笑顔があふれる 明るいまち～

(豊山町第7次介護保険事業計画 基本理念)

地域包括ケアシステム構築に向けた重点項目（案）

- ・ 自分の健康に関心を持ち、地域で取り組む『**介護予防**』
- ・ 住み慣れた自宅や地域でその人らしい生活が継続できるための『**医療と介護**』
- ・ 高齢者を孤立させない、地域のケアによる『**地域ネットワークづくり**』
- ・ 高齢者の多様なニーズに対応できる、地域でつくる『**生活支援**』
- ・ あらゆる世代や関係機関が認知症を理解し、地域全体で支える『**認知症施策**』
- ・ 個人の困りごとから、住みやすい地域を作る『**地域ケア会議**』

2 地域包括ケアシステム構築に向けた各事業の進捗状況について

総合事業（介護予防事業）

（１）課題

- ・前期高齢者から健康づくりや介護予防に対する意識を持ち実践することができる環境づくり
- ・介護予防を通じた地域のつながりの強化、孤立化予防
- ・高齢者が培ってきた能力や経験を生かし、地域や社会で活躍できるよう高齢者の生きがいをづくりや社会参加の推進

（２）総合事業の重点事業

【ケーブルテレビで名古屋大学健康長寿シリーズ放送（名古屋大学連携事業）】

目的	実績	令和元年度事業計画
自宅で健康長寿に関する正しい情報を入手し、自分のペースで介護予防に取り組むことができる環境をつくる	平成 30 年 10 月より開始 1 番組 15 分、1 日 6 回、月～金曜日放送 [番組内容] ・講義 9 番組（健康長寿の秘訣、栄養、口腔、シニアの活動団体の紹介等） ・実技 9 番組（認知症予防体操、筋力トレーニング、料理番組等）	新番組を作成し継続 ----- 令和 2 年 1 月頃より豊山町健康長寿大学（仮）を開校（活動や参加を促す多様な介護予防に関するカリキュラム、インストラクター養成等）

【住民主体サロン活動支援事業】

目的	実績	令和元年度事業計画
高齢者が介護予防活動や仲間作りのために自主的に行うサロンの継続支援のため活動費を補助する	6 団体、88 回、1,467 人	継続、サロン交流会実施

【介護支援ボランティア事業】

目的	実績	令和元年度事業計画
高齢者が介護支援ボランティアの活動を通じて、自らの介護予防及び健康増進に積極的に取り組むことを支援	平成 30 年 8 月より開始 活動者：事前登録・ボランティア保険加入必要） 活動先：町に登録をした受入団体（介護保険施設、町の介護予防教室・イベント） ----- ・登録者 49 人 ・ポイント交換者 28 人 ・ボランティア受入登録団体数 10 団体 介護保険施設 7 団体、介護予防教室・町のイベント 3 団体 ・ボランティア交流会 1 回 17 人	継続

在宅医療・介護連携推進事業

(1) 目的

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するための支援を行う。

(2) 在宅医療介護連携に関する課題

- ・尾張中部地域（清須市・北名古屋市・豊山町）内で在宅医療を提供する医療機関等の資源は少ないため、近隣市町の資源も活用した連携体制の構築が必要
- ・尾張中部地域外の患者流入が多く、退院時の連携不足により住民が必要な医療及び介護サービスを切れ目なく利用できない恐れがある
- ・医療と介護関係者の情報共有ツール（電子@連絡帳）を尾張中部地域で同じシステムを導入しているが、尾張中部地域外の広域的な連携体制の構築が必要
- ・医療や介護が必要となった時に、住民が望む生活を実現できるため、住民への在宅医療や介護についての普及

(3) 事業構成毎の実績及び事業計画

【実施方法変更】平成30年度から西名古屋医師会に清須市・北名古屋市・豊山町合同で在宅医療サポートセンターを委託し、以下の事業を協働し実施

	項 目	内 容	平成30年度実績	令和元年度事業計画
1	地域の医療・介護資源の把握	平成28年8月よりレインボーネット（地域資源マップ）をインターネット上で公開	登録数 ・アクセス数 3,437件 （清須市、北名古屋市含む、業者変更後の10月以降集計分）	継続
		在宅医療・介護資源マップ	情報を更新し配布	継続
		医療関係者向けの在宅医療に関する意向調査	西名古屋医療機関便欄更新調査（機関情報、医師との連絡方法、訪問診療の有無等について確認）	継続し訪問診療の実施意向について追跡調査
2	在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	豊山町地域包括ケアシステム推進協議会の開催	年2回開催	年2回開催
3	切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	尾張中部地域の高齢者が利用する入院機関等を把握し、退院支援時の連携を強化	レセプト分析実施	左記の分析の結果、連携が必要な地域外医療機関に資源マップの配布とレインボーネット加入勧奨
4	在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	尾張中部地域在宅医療・介護連携推進協議会及びワーキング会議への出席	協議会 年1回 ワーキング会議 年4回	左記同様 ワーキング会議テーマ：多職種連携推進のためハンドブック作成

5	医療・介護関係者の 情報共有の支援	平成 28 年 8 月より豊 山レインボーネット （電子@連絡帳）をイ ンターネット上で公 開	【電子連絡帳 利用者】 患者数 5 人 支援関係者数 12 施設・17 人 H30.10 月～委託会社変更	レインボーネットの普及 ※電子@連絡帳広域連携 協定に加入予定（資料 2） 尾張中部地域の存在する 情報共有ツールの収集
6	在宅医療・介護連携 に関する相談支援	地域の医療・介護関係 者等からの相談の受 付、連絡調整、情報提 供等	32 件	継続
7	在宅医療・介護関係 者の研修	尾張中部医療圏在宅 医療・介護連携研修会	ACP（アドバンス・ケア・ プランニング）について 講師：三浦久之先生（国立 長寿医療研究センター） 参加者 96 人 （実施主体：左記の協議会）	テーマ：ACP の実践編 R2 年 1 月頃 （実施主体をサポートセン ターへ変更）
		豊山町介護支援専門 員研修会	要介護認定者の災害対策 について 17 人	（案）精神疾患患者及び家 族への支援について
		多職種連携研修会	電子@連絡帳を使用した 連携の成功例について 21 人	口腔観察シート（資料 3） を使用した要介護高齢者 の経口摂取支援 6 月 13 日
		豊山町ケアマネ会支援	年 2 回実施 15 人	年 4 回
8	地域住民への普及 啓発	在宅医療推進講演会 等	もしかして認知症？ 「家族や周囲ができる認 知症のチェック講座」 1 回 59 人	6 月 20 日（木） 落語で学ぼう！エンディン グノート普及講演会 9 月 26 日（木） 在宅医療普及講演会 「在宅医療って何だろう う？～」講師：訪問診療医
		普及イベント		9 月 8 日（日） 健康福祉フェスティバル で在宅医療・介護に関する 普及コーナー設置

生活支援体制整備事業

(1) 目的

単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症高齢者等の多様な生活支援のニーズを抱える高齢者が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるために必要な生活支援サービスについての基盤整備を推進する。

(2) 課題

- ・高齢者が何らかの事情により他者の援助を必要とする場合、利用できる支援が介護保険サービスに依存しているが、住民のニーズに対応しきれない場合も多いため、他の支援体制の構築が必要
- ・独居高齢者、高齢者世帯の孤立を防ぐ地域づくり

(3) 事業構成及び実績

事業	内容	平成30年度実績	令和元年度事業計画
協議体の開催	地域の高齢者支援に携わる方との情報共有及び連携・協働による取組を推進する為の会議	年2回 18人	年3回
コーディネーター活動	地域の資源開発、ネットワーク構築、ニーズと取組のマッチングを実施	8月より介護支援ボランティアポイント制度開始 ----- 豊山町いきいき安心生活ガイド作成・配布	【ニーズ調査】 ・独居・高齢者世帯 ・ボランティア ・民生委員、児童委員 ・介護支援専門員 ・ケアプラン分析 【地域資源の把握】 ・商業施設等の生活支援サービス調査 ・交流の場調査（高齢者サロン等）

認知症総合支援事業

(1) 課題

- ・ 認知症の初期段階で医療受診につながらず、進行し生活や家族に支障が出始めてから、受診や相談につながる方が多いため、早期診断・早期対応ができる体制が必要
- ・ 家族が認知症介護の負担を抱え込みやすいため、家族への支援が必要
- ・ 徘徊症状により行方不明の恐れがある方の相談が増加しており、地域住民の協力を基にした支援体制の構築が必要
- ・ あらゆる世代や関係機関の認知症の理解向上及び支援体制の構築
- ・ 新規の認知症サポーター養成と協力体制の構築

(2) 事業

【認知症初期集中支援チームの設置】

認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

[訪問支援対象者]

原則として40歳以上で在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する者

- ①医療サービス、介護サービスを受けていない者、または中断している者で以下のいずれかに該当する者
 - ・ 認知症の臨床診断を受けていない人
 - ・ 継続的な医療サービスを受けていない人
 - ・ 適切な介護サービスに結びついていない人
- ②医療、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している者

事業	内容	平成30年度実績	令和元年度事業計画
認知症初期集中支援チーム設置 (済衆館病院へ委託)	・ 認知症初期集中支援チームの普及 ・ 相談時、随時訪問 ・ 月1回チーム員会議開催	対象者4人 (終了者3人、継続者1人) チーム員会議12回 訪問件数14回	・ 継続 ・ 普及活動 ・ 把握活動

【認知症サポーター養成講座の開催と協力体制構築】

①認知症サポーターとは

- ・ 認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者
- ・ 何か特別なことをするのではなく、できる範囲で手助けを行うというもので、活動は任意
- ・ 市町村や職場等で実施されている認知症サポーター養成講座の受講が必要

②養成講座の内容

認知症の方やその家族が安心して生活しやすい地域づくりを行うため、地域住民に認知症の症

状や対応について普及する。受講した者に認知症サポーターの証である「オレンジリング」を配布。

③実績（平成18年度から実施）

サポーター数	内訳		
3,935 人（累計）	成人	小中学生	町内の商業施設等
	1,571 人	2,239 人	125 人

④今年度実施予定

実施方法	対象	目的
出前講座	住民・在勤者等	認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、地域や職域で支援する
地域包括支援センター主催		
福祉実践教室（学校からの依頼により実施）	・新栄小学校 4～6 年生 ・豊山小学校 4～6 年生	認知症を正しく理解し、困っている高齢者を見かけたら大人に相談できる

⑤認知症サポーターとの協力体制構築について

- ・徘徊者への声かけ模擬訓練

地域ケア会議（地域ケア個別会議）

※令和元年度新規事業

（１）目的

個別ケースについて多職種で検討を行い、個別課題の解決を図るとともに、多職種のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握をする。

（２）参加者構成

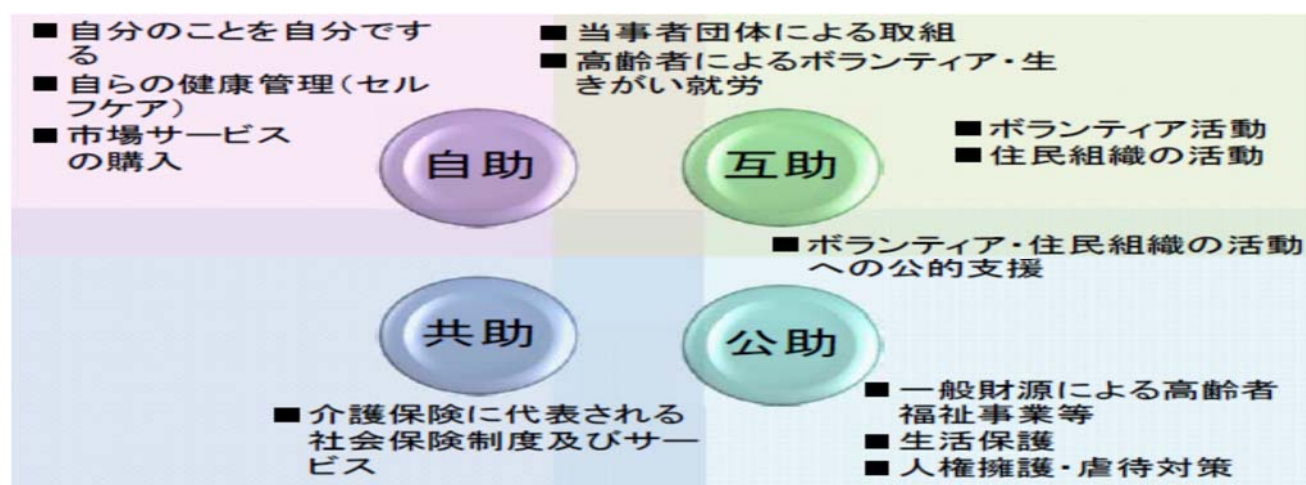
個別ケース提供者	担当する介護支援専門員
アドバイザー （包括より各専門職団体に出席依頼）	医師、歯科医師、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士、栄養士、在宅医療サポートセンター職員
医療・介護専門職	下記日程に合わせ関係機関に周知し自由参加

（３）事業計画

	日時	場所
1	6月28日（金）	午後1時30分～3時 保健センター 2階 研修室
2	9月27日（金）	
3	12月13日（金）	
4	3月6日（金）	

地域包括ケアシステムの普及

目的	方法
地域包括支援センターの普及	地域包括ケアシステム構築に向けた中核的な機関としての役割を持つ地域包括支援センターを、住民に覚えやすく親しみがある存在とするため、「通称名」を設定する。住民・在勤者より公募し、8月に地域包括支援センター運営協議会で審査し決定する。
地域包括ケアシステムの普及	地域包括ケアシステムの「自助」「互助」を高めていくことを目的に、住民に地域包括ケアシステムを周知する（広報、出前講座等）



厚生労働省HPより

「自助・互助・共助・公助」からみた地域包括ケアシステム